



団体名	NPO法人ホールアース自然学校	活動タイトル	希少植物の最適環境の把握と、地域内外の人材による持続可能な保全体制の構築支援		
活動対象地域における生物多様性の保全に関する現状と課題			■ 活動風景		
<p>● 保全に関する現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保全に主体的に関わっている団体：平成25年より当該団体が主体となり、保全体制、個体数調査、盗掘巡回等を実施 ・保全状況：保全当初は数十株程度だったが、上記活動により数百株に増加 ・創設メンバーが主体となった運営体制：37名の会員の殆どが60-70代 ・自主財源比率の高水準：現状は会費や有志の持ち出しが多い（助成金や企業との連携等による外部資金を活用した活動ではなく、内部の資金を使用したりメンバーのうちの有志によるボランティアでの活動となっている。） ・盗掘：無断で敷地内に侵入し盗掘する例が毎年発生 <p>● 保全に関する課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 該当種に関する専門的で科学的な知見の不足： <ul style="list-style-type: none"> → 当該団体を中心に保全活動を行うことで開花個体数自体は増加したものの、この場所の環境が最適かどうか、種の生育状況がどのようなものが把握しきれていない。 2. 地域内外の、保全意識を持った次世代人材の不足： <ul style="list-style-type: none"> → 地域の内情や希少種に対する情報の管理等の知見を持った次世代人材が育っていない。 3. 限られたメンバーでの保全活動体制： <ul style="list-style-type: none"> → 保全団体の一部有志が、運営資金を持ち出して活動を行っているため、持続することが難しい運営体制となっている。 			<p>希少種に関する講義</p> <p>保護の会、講師、当会の3者が参加し、コミュニケーションを取りながら該当種の生態や保全方法を学習した</p> 		
■ 活動報告		■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)			
<p>● 該当種の生態に適した環境創出</p> <p>該当種に類する仲間の研究に従事する研究者を招聘し、現地での環境や生育期・開花期・果実期それぞれにおける該当種の個体数及び生育状況を調査することで、現地における該当種の生育状況を把握するとともに、保全に向けた最適な環境を創出するための分析及び検討を行った。具体的には、講師から該当種に関する生理生態的な特徴等の講義を受けた上で、自生地での環境調査及び個体調査を行った。これらの情報を整理し、今後の保全体制計画の土台を作成した。</p> <p>● 担い手人材育成講座</p> <p>希少生物の存在意義や保全への取組み、盗掘の現状を理解するとともに、保全団体の活動をサポートできる人材の育成を行った。具体的には、予定通り3名に参加してもらうことができ、その参加者に講師からの該当種の情報のインプットや、保護の会の方からの現状や想いの共有してもらった。また、こうした時間の中で相互にコミュニケーションをとり、関係性を構築した。</p>	<p>● 該当種の生態に適した環境創出</p> <ol style="list-style-type: none"> ①開催 <ul style="list-style-type: none"> → 顔合わせ会：1回、調査：4回、講師との打ち合わせ（web会議・メール・電話含む）：5回程度 ②目標アウトカム <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当地における該当種の生育状況が明らかになる <ul style="list-style-type: none"> → 「開花数」に加えて「個体数」の調査を実施したことで、該当種全体の生育状況が明らかになった。 ・ 該当地における該当種の理想的な環境が検討される <ul style="list-style-type: none"> → 講師による該当種に関する化学的知見からの講義と土壌湿度・方位・斜度・植生などの環境調査の実施により、該当地での最適な生育環境が明らかになった。 ・ 保全団体と専門家が連携し、科学的知見に基づいた保全体制計画が検討される <ul style="list-style-type: none"> → 1年間のみの調査であるため得られた情報は限定的ではあるが、上記の情報を踏まえて保全体制計画の土台の作成が進んでいる。 ● 担い手人材育成講座 <ol style="list-style-type: none"> ①開催→講座：3回 ②目標アウトカム <ul style="list-style-type: none"> ・ 希少種に対する深く正確な知見が取得される <ul style="list-style-type: none"> → 講師からの科学的な知見、保護の会からの現場的なノウハウの提供により、該当種や自生地の状況が参加者にインプットされた。（共通言語を持って参加者・講師・保護の会の3者が会話できていることや、理解しているからこそ出てくる質問などからも実感している） ・ 自主的な保全意識が向上する <ul style="list-style-type: none"> → 3名中1名は、多忙を理由に入会しはしない以降は示したものの、活動自体に関わる意思を表明してくれた。 → 得た情報や浮かんだ疑問について自主的に調べ、次の回で講師へ質問している姿も見られた。 ・ 当会活動（保全体制活動・盗掘バトロール等）への自発的な参加が起きる <ul style="list-style-type: none"> → 雨天にも関わらず、終日保全体制活動に参加していただくことができた。 → 自生地の近隣へ来た際に、盗掘者などがいないか意識的に確認していただいた旨の報告を受けた。 	<p>該当地での保全</p> <p>写真にある杭を用いてコドラートを設置し、各地点における開花数・個体数・その他植物の生育・その他状況などについて調査を行った。</p> 			
■ 事業を通じて得られたノウハウ		■ 望ましい社会状況を達成するための課題			
<p>● 正式会開始前の「顔合わせ会」の開催による各関係者の立ち位置の見える化</p> <p>→ 第1回からスタートすることを想定していたが、その前段階として「コミュニケーション」のみを目的とした会が事前にあることの重要性和その場の持ち方が体得できた。</p> <p>● 地域の保全体制の方々と外部の参加者の関係性構築方法</p> <p>→ 異なる価値観をもった主体同士の関係性構築においては、情報をオープンにすること、その順序やタイミングを見極めて足並みをそろえていくことが信頼につながるのだと実感した。</p> <p>● 該当種の詳細な生態や観察方法</p> <p>→ 全国でも数カ所にとどまる該当種に関する専門的な知見や自生地でのリアルな現状を把握できたことが、他の自生地の発見や保全に応用できるのではないかと感じた。</p> <p>● 希少種の取扱い書類に関する申請方法</p> <p>→ 環境省および静岡県への許可申請を行うことで、希少種の取扱いに関する注意事項や関連する法令、それらを遵守するために必要な情報およびその取得方法を理解した。</p>	<p>保護の会、講師、当会の3者での検討の上で、今年度は、「該当種の生態に適した環境創出」「担い手人材育成講座」を実施したが、以下の課題が明らかになった。</p> <p>「該当種の生態に適した環境創出」</p> <p>→ 上述の通り、科学的な知見及び現場での状況を関係者間で共有できたことで、該当種に適した環境条件が見えてきた一方で、ナラ枯れや隣接する人工林の拡大などにより大きな環境変化が起こっており、該当種の生態に焦点を当てた保全だけではなく、広域的な視点での保全体制の必要性を実感した。</p> <p>「担い手人材育成講座」</p> <p>→ 予定通り3名の方に参加いただき、そのうち2名の方に入会の意思を表明していただいたが、保護の会側で関わっていただいたのは、会長・副会長および1名のメンバーのみだったため、活動だけが先行する前に、現時点で他の会員の方々とも関わりを持ち会全体として新たな会員を迎え入れていただく機運と理解の醸成の重要性を感じた。</p>	<p>■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</p> <table border="1" data-bbox="2033 1606 2828 1743"> <tr> <td data-bbox="2033 1606 2211 1743">この1年間の活動を通じて</td> <td data-bbox="2211 1606 2686 1743">保護の会への2名の新規入会 希少種の該当地での個体数等の詳細な把握</td> <td data-bbox="2686 1606 2828 1743">を達成しました。</td> </tr> </table> <p>■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</p> <p>・ 対象とする希少種</p> <p>→ これまでは確認されてこなかった様々な視点で調査されたことにより、現地での生育実態や保全体制の方法に関する解像度が大きく向上した。</p> <p>・ 新たに関わった人材</p> <p>→ 「科学と実地の両面からの詳細な知見を得ることができとも学びになった」「これほどの希少な種の保全に関わらせていただく価値・ありがたさ・責任を感じた」「保護の会の方々の長年に渡るご尽力と熱い思いに感銘を受けた」等の声が聞かれた。</p>	この1年間の活動を通じて	保護の会への2名の新規入会 希少種の該当地での個体数等の詳細な把握	を達成しました。
この1年間の活動を通じて	保護の会への2名の新規入会 希少種の該当地での個体数等の詳細な把握	を達成しました。			